



袋詰め担当の吉竹淳子さん

長年のご愛顧に感謝 キーワードは「恩返し」

明治31年(1898年)、氷上町成松で創業した、丹波茶を製造・販売する「かねゆ商店」。こだわりの丹波茶と、3代目の足立幹子さんが教える編み物教室で、お客さんを迎えます。

創業121年目の今年、幹子さん(左)に商売に対する思いなどを伺いました。

一番茶にこだわって製造

かねゆ商店は、昔ながらの製法でお茶の製造販売を行う一方、洋服・手芸用品の販売や編み物教室を行う商店です。一番茶にこだわり、年1回無農薬・有機栽培のお茶を製造し、市内の道の駅などで販売しています。

創業当時はお茶の販売のみでしたが、収益を上げるため、2代目が洋服や手芸用品の販売を始め、3代目で編み物教室を始めました。毎日が慌しく過ぎていき、4月〜6月のお茶のシーズンが終わるとほっとします。

新茶の季節は大忙し

お茶は、氷上地域・篠山市栗柄に5カ所ある畑で、甘みがあつておいしい在来種と香りの豊かなヤブキタ種を栽培しています。1年に1回しか収穫しないので、お茶の木が元気で、アミノ酸の豊富なおいしいお茶を作ることができます。

製造の際には、長く付き合ひのある職人さんに畑の管理や機械の操作などをお世話になり、全部で1.5トンほど製造します。80歳になってもずっと働き続けられるよう、茶葉を蒸すところから乾燥までを自動で行える機械を導入しており、

品質を目と手で確かめながら、慎重かつ素早く操作します。また、初代の頃から使用している唐箕なども活用しながら等級を分け、4月〜6月に一気に販売の準備を整えます。

編み物教室も開く

昭和53年ごろからお店を手伝い、義母に編み物を教えてもらいながら資格を取り、編み物の教室を始めました。30年ほど前は編み物ブームで、多いときは30人〜40人の生徒が教室にいられていましたが、現在は数人の生徒さんが週に1回来られます。昔に比べ、現代は生活が忙しく、趣味や家族に割く時間が取れなくなっているのが少し寂しく感じています。

お茶と編み物講習で恩返しを

現在76歳ですが、新茶のさわやかな香りをかぐと、元気になってしっかりと働くことができます。自分に出ることで、長く商売を続けてこられた恩返しをしたいと考え、たまに企業にお茶の入れ方を教えに行ったり、編み物講習会をしたりしています。そういった活動を通じて得たたくさんの方とのつながりを大事に、皆さんに愛されるような店にしたいと思っています。

